

2017/3/20-3/26 デボーションガイド 「ユースマナ」 詩篇 27:4 私は一つのことを主に願った。 私はそれを求めている。私のいのちの日の限り、主の家に住むことを。主の麗しさを仰ぎ見、その宮で、思いにふける、そのために。	2017/3/20(月) ゼカリヤ 6 章 前半には幻の続きがあり、後半 9 節からは、大祭司ヨシュアに金の冠をかぶせるという具体的な役割をゼカリヤが与えられている。だけど通常、祭司は王とならないので、祭司に冠をかぶせるというのはとても不思議な行為です。12,13 節の「ひとりの人」は総督ゼルバベルで、「祭司」はヨシュアであると解釈されています。なぜ祭司が冠を受けるのでしょうか。私たちは主イエスが王であり、同時に祭司であることを知っているね。総督としてのゼルバベルと大祭司ヨシュアは二人合わせて、来るべき一人の救い主イエスを表していると言われています。イエスは全てを治める王であり、同時に私たち人と天の父との間に立つてくださる大祭司の役割を持ってい方でもあります。自分にとってイエス様がどういう方か思い巡らそう。	2017/3/21(火) ゼカリヤ 7 章 いつまでも、後悔していることあるかな?? イスラエルは罪によって捕囚されたけど、神様によって自分の国に帰ることが出来たんだ。帰ってきてから断食をどれ位すれば良いかベテルの人達は聞いたよ。でも神様はその心を見て、見た目ばかりを気にして、心がこもってないと言ったよ。神様は過去の失敗をずっと後悔し続けるのではなくて、赦されて新しい感謝の歩みをして欲しいと思っているんだ!! 感謝の歩みは良いことで満ちているはずだよ!! 9,10 のように感謝の心を持って積極的な良いことをする事が出来ますように!!	2017/3/22(水) ゼカリヤ 8 章 神殿建設が再開して 2 年、工事の完成までなお 2 年残っており、最も苦しく、忍耐が試される時を人々は過ごしていた。主は、そのような中でエルサレムの将来像を情熱を持って人々に語られた。主の情熱が、みこころの実現を突き動かす原動力なのである。そして、民に勇気を出して工事を完成するようにと言われた。工事開始前と後とで、民は、神を第一にし、信仰によって歩むことを少しずつ体験的につかみつつあった。神さまは、私たちの将来の計画にもみこころを成し遂げる情熱を持ってくださっている。主の真実と平和を愛し、主の喜びに満たされよう! 主は、どんな時もあなたと共に居てくださる!
2017/3/23(木) ゼカリヤ 9 章 今日の箇所では、これまでイスラエルに対して語られていた神の裁きの言葉が、その隣接する国々、ここでは主にペリシテやティルス、シドンといった元海洋民族が地中海東岸に築いたこれらの国々に対して語られ、まさにそうした国々に対する神の裁きが執行されると共に、イスラエルの繁栄が回復されるというものです。 このところで示されるイスラエルの隣国の罪は、結局のところ人間の手の業によるものを神とし、イスラエルに対して敵対したことが上げられています。 そして、そうした人間的な軍勢力や経済力といったものによる守りではなく、まさに神の力による守りを実現することを神さまが宣言されるのです。 今日も神様に約束を信じ、信頼し歩もう!!	2017/3/24(金) ゼカリヤ 10 章 私達の前には沢山の情報があり、それを見て聞いたりを自然としています。それが私達にとって悪い物だったりしますね。それによって恐れったり、怒ったりする事は罪に繋がります。だからまずキリストを見ながら周りの物を見ていく目を養う必要があります! その目を求める祈りをしよう! ユダは間違った相手に求めてしまいました。 そのような罪の中で子孫として生まれてくるのがキリストです。 私達には罪があるけれど、神様が働かれる事を信じている事で沢山の事を成し遂げる事が出来ます。 この事を教会の群れと一緒にやっこう! あなたの心を求めますと祈ろう!	2017/3/25(土) ゼカリヤ 11 章 今日の章では救い主として来たイエス様が人々に拒絶されることや、イエス様を裏切ったユダの行動が預言として書かれている。ゼカリヤは神様に「ほふるための群れ」を養うように言われた。その群れは悪い牧者に飼われ、捨てられるように売られほふられる。神様はその群れを惜しまないからだ。そんな荒れた群れを慈愛、結合と名付けた杖で飼うことになったゼカリヤ。愛と忍耐をもって飼ったものの、良い牧者をも拒絶する群れに、最終的には苦悩の末飼わないと言う。その苦しみ牧者をするゼカリヤを通してイエス様の姿をあらわし、彼のわずかな賃金はユダが同じくらいの額でイエス様を売り渡したことの象徴。民がどのくらい救い主を軽く見たかが表わされる。私たちはイエス様に対してどのくらいの価値を置いているだろう? 考えてみよう!	2017/3/26(日) ゼカリヤ 12 章 今日は「宣告」ということばによって、預言の後半が始まります。「天を張り、地の基を定め、人の霊をその中に造られた方、主の御告げ」は、「その日」に必ず成就します。 「その日」、地のすべての国々が攻め込みエルサレムを包囲します。エルサレムを攻めようとする者たちは神様の杯を飲まされ、ひどい傷を負わされる。また、神様はエルサレムの指導者たちを「火鉢」や「たいまつ」のようにすると約束していて、指導者たちは攻め寄せる者たちを蹴散らします。ですが、「力は彼らの神、万軍の主にある」と心に確信しているから高ぶることはありません。クリスチャンは、この世を支配する闇の力に対する杯や重い石、たいまつのような存在です。神様に従うゆえに周囲に同調しないクリスチャンは、「やっかいな存在」に映り、圧力や迫害が加えられる。そのような中で、「わたしは…する」ということばを覚えて、神様の力によって勝利しましょう!

